＜巻 頭 言＞

平成22年の年頭にあたって

吉　越　　洋*

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり，会員ご一同様のますますのご活躍と，当会の発展を祈念申し上げます。

昨年は，リーマンショックに端を発する経済・社会の混乱がつづき，米国ビッグスリーや我がナショナルフラッグの乱調，収まる気配も見せない戦乱やテロ・暴動の頻発など，全世界が波乱と不安に満ちた１年であったような気がいたします。米国における初の黒人大統領の誕生，我が国の政権交代など，変化と現状打開を求める大きなうねりは認められるものの，未だその成果は判然とせず，混沌とした視界不良な環境の中で新年を迎えることとなりました。

私どもの周辺につきましても，ダム事業の凍結・中止が云々されるなど，荒波に揉まれること必至の情勢でありますが，水の制御を通じた災害防御，環境保全，国土保全等の重要性はどのような時代になっても変わることはないと思いますので，この際，じっくり腰を据えて議論を活発にし，研鑽を重ねたいと存じます。

さて，当会の昨年の活動を振り返ってみますと，５月にブラジルのブラジリアで開催された国際大ダム会議（ICOLD）第77回年次例会・第23回大会への参加が最大のイベントでありましたでしょう。新型インフルエンザが全世界に広がり始めたときで，参加者の激減が心配されましたが，幸い80カ国から1,170名という多数の参加があり，主催国も安堵の様子でした。日本からも海外出張規制等による若干の辞退があったものの46名という多くの方々が参加され，技術委員会での討議や大会課題についての論文提出・発表など大いにご活躍いただきました。ご関係の皆様に厚く御礼申し上げるとともに心から敬意を表する次第です。

また，ご高承のとおりICOLD総会において，日本大ダム会議は2012年の第80回年次例会・第24回大会を京都に招致するべく立候補し，投票の結果，決定されました。ここ数年の準備や招致活動にご尽力いただいた皆様に，改めて衷心より感謝申し上げ，2012年の実施に向け一層のご協力をお願いいたします。

10月には，恒例の第６回東アジア地域ダム会議（EADC）が韓国ソウルにおいて，

* ㈳日本大ダム会議 会長（東京電力㈱ 顧問）

「Climate Change，Future Challenge of Dams」をメインテーマとして開催されました。韓国大ダム会議のご努力により，６カ国，総勢268名の参加を得，昨年の日本での横浜会議に劣らぬ盛況でした。日本からは47名という多数の皆様にご出席いただき，シンポジウムの３つのセッションへの提出論文８，口頭発表６論文など，熱心に活動いただき，韓国大ダム会議から大いに感謝され，面目を施しました。中国，韓国との友好善隣関係は，来る2012年ICOLD京都会議にも必ずよい影響をもたらすものと期待されます。ご協力賜りました皆様に，重ねて厚く御礼申し上げます。

なお，同じ10月，第６回EADCの前の週に，中国　成都において，中国大ダム会議とブラジル大ダム会議共催の「ロックフィルダムに関する国際シンポジウム」が開催されました。日本大ダム会議の関与する行事ではありませんが，ICOLDの松本副総裁が招待を受けたほか，日本からは，吉越はじめ15名が主催者の求めに応じ参加しました。総数約330名，大多数が地元中国の方々でしたが，諸外国からも十数カ国の参加者があり，また中国官民の水資源・電力関係機関の幹部が勢揃いするなど，最近の中国の熱気と勢いを象徴するような会議でした。

2012年のICOLD年次例会と大会に向けた準備状況ですが，ブラジリアでの当選後直ちに準備委員会（委員長：坂本JCOLD副会長）を立ち上げ，種々検討をお願いして参りました。また，ICOLD松本副総裁を通じてパリの本部との調整を図って参りました。その結果，６月１日の受付開始を皮切りに，第80回年次例会を６月２日～５日に，第24回大会を６日～８日にそれぞれ開催するスケジュールとし，メイン会場を京都国際会館とするなど，基本事項について成案を得，10月１日に組織委員会（委員長：吉越JCOLD会長）と実行委員会（委員長：坂本JCOLD副会長）が発足いたしました。

この行事は，予て諸外国から強く要望され，また諸先輩方から悲願として連綿と受け継いできた，日本大ダム会議の80年近い歴史の中で初めての大事業であります。今後は，主として実行委員会ならびにその傘下の分科会の皆様に大変なご苦労をお願いすることになると思いますが，コンセプトとしている「Compact and Fruitful ICOLD 2012 with Warm Hospitality」の実現に向け，関係者一同一致結束，何卒よろしく全力投球いただきますようお願い申し上げます。

以上，主として昨年の本会の国際活動について振り返りましたが，国内の通常活動につきましても，企画委員会，技術委員会，国際分科会始めさまざまな委員会活動，ダム技術講演討論会，見学会等々滞りなく順調な１年であったと感じております。各委員会の委員長，委員各位，当会事務局などご関係の皆様のご努力に深く敬意を表し御礼申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げ，年頭のご挨拶とさせていただきます。